

琵琶湖略年表

西暦	和暦	出来事
約400万年前		三重県伊賀市付近に浅くて狭い湖ができる(大山田湖)
約40万年前		琵琶湖が今とほぼ同じ位置に定まる
約6500年前		縄文土器がつくられ、淡水の貝塚ができる(石山貝塚)
約4500年前頃		琵琶湖で丸木舟を使用
667	天智6	天智天皇(中大兄皇子)が近江大津宮に都を遷す
788	延暦7	最澄が比叡山に一乗止観院を建て(延暦寺のはじまり)
794	延暦13	京都(平安京)に都が遷る
1571	元龜2	織田信長が山門(延暦寺)を焼き討ち
1576	天正4	安土城の築城が始まる
1583	天正11	賤ヶ岳の戦い(長浜市)に勝利した秀吉が信長の後継に
1604	慶長9	彦根城の築城が始まる
1842	天保13	甲賀・野洲・栗太郡の農民による天保一揆
1872	明治5	「滋賀県」誕生
1880	明治13	大津—京都間の鉄道開通
1890	明治23	琵琶湖疏水が完成(第一疎水)
1893	明治26	瀬田川浚渫(しゅんせつ)工事が完成
1896	明治29	琵琶湖大水害が発生
1905	明治38	南郷洗堰(あらいぜき)設置
1939	昭和14	現・滋賀県庁舎ができる
1942	昭和17	内湖の干拓が始まる
1952	昭和27	専門家による「琵琶湖総合開発に対する意見書」が建設大臣に提出される
1957	昭和32	大中の湖の干拓に着手(1967年完成)
1960	昭和35	近畿地方建設局など琵琶湖総合開発協議会が堅田—守山間に堤防を築き、琵琶湖を南湖と北湖に分ける「堅田縮切堤案」発表
1961	昭和36	瀬田川洗堰を改築
1962	昭和37	農林省が湖中に堤防を築き琵琶湖を外湖と内湖に分ける「ドーナツ案」発表
1963	昭和38	滋賀県が琵琶湖の水をパイプで直接大阪まで送水する「パイプ送水案」発表
1964	昭和39	農林省が「南湖ドーナツ案」、建設省が「湖中提案」を発表 琵琶湖大橋が開通
1969	昭和44	琵琶湖にかび臭発生、京都市水道で初めてかび臭いと苦情
1972	昭和47	4月、志賀町(現・大津市)沖で局部的な赤潮発生 5月「琵琶湖総合開発特別措置法」が衆議院で修正可決、6月公布。 琵琶湖総合開発事業始まる
1974	昭和49	近江大橋が開通
1977	昭和52	5月、赤潮大発生 10月、合成洗剤追放全国集会、大津で開催
1978	昭和53	「びわ湖を守る粉石けん使用推進県民運動」県連絡会議結成
1980	昭和55	「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(琵琶湖条例)施行
1981	昭和56	琵琶湖条例1周年を記念して7月1日を「びわ湖の日」と決定
1982	昭和57	琵琶湖研究所発足
1983	昭和58	学習船「うみのこ」就航
1984	昭和59	第1回世界湖沼会議(琵琶湖・大津)開催
1986	昭和61	国際湖沼環境委員会(ILEC)設立
1988	昭和63	「よみがえれ琵琶湖」署名運動が起きる。約34万人の署名を集め家庭排水の早期対策を求める請願書を県議会に提出し採択される 京滋(けいじ)バイパス開通
1993	平成5	琵琶湖がラムサール条約の登録湿地に決定
1996	平成8	滋賀県立琵琶湖博物館が開館
2000	平成12	「マザーレイク 21 計画」を策定
2003	平成15	「滋賀県環境こだわり農業推進条例」制定
2005	平成17	滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター開所
2006	平成18	日本初の重要文化的景観として「近江八幡の水郷」が選定
2012	平成24	「マザーレイクフォーラム」設立
2013	平成25	「内湖再生全体ビジョン」策定
2015	平成27	「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」(琵琶湖保全再生法)が施行
2017	平成29	「琵琶湖保全再生施策に関する計画」策定
2018	平成30	2代目「うみのこ」就航
2019	平成31	琵琶湖北湖で観測史上初の全層循環未完了
2021	令和3	「マザーレイクゴールズ(MLGs)アジェンダ」策定
2022	令和4	琵琶湖システムが世界農業遺産に認定

参考文献:国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所「瀬田川堰堤」パンフレット、大津市歴史博物館 常設展示解説シート「大津の略年表」(2018年3月15発行)、大津市歴史博物館HP、近江八幡市HP、滋賀県「滋賀の環境2022」(令和4年度版環境白書)巻末資料、滋賀県立公文書館 展示図録「琵琶湖の水をめぐる」、滋賀県HP「滋賀のあゆみが分かる歴史年表」